様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　２ 日現在

機関番号：３４３０５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０２８２１

研究課題名（和文）幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発

研究課題名（英文）Development of Teaching Materials Using Mokuiku in Childcare and Educational Practices for the Cooperation between Kindergarten and Primary School Education

研究代表者
矢野　真（YANO, Makoto）

京都女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号：００３６９４７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，実際の保育現場における「木育」による造形教材を中心に，子ども及び保育者の感性やコミュニケーション能力を育むとともに，幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力を小学校における図工を中心とした合科的・関連的な学びへとつなげる教材開発を目的として検討を行った。結果，対面による地域連携活動にも共通しうるオンデマンド配信による木育教材の作成や，作品を通じて他者とのコミュニケーションを考えることなど，幼小連携につながる教材としての新たな学びの可能性が得られた。これら実践については，「ワクワクキャラバンちゃんねる」として動画公開を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究における研究結果は，これからの保育者養成校で学ぶ学生や保育・小学校の現職教員の再教育（リカレント）への教育的資源として活用されることが考えられる。また，この「木育」による幼小連携を意識した教材の開発を通して，幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力を各教科等の特質に応じた学びにつなげ，子どもが新たな感性を育み，コミュニケーション能力を育成するといった造形教材への応用としての可能性が考えられ，幼児と保育者，児童と教員，地域住民，行政といった子育て支援に対する支援活動との関連としての研究に広がりうると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop teaching materials using the formative arts based on mokuiku in actual childcare settings which foster sensibilities and communication skills of children and child carers and also apply the qualities and abilities nurtured by the end of early childhood to interdisciplinary and interrelated learning centered around the art class at primary school. As a result, new learning possibilities were achieved through teaching materials that bridge nursery and primary schools such as examining communication with others through art works and making materials for mokuiku through on-demand streaming of activities allowing face-to-face community cooperation activities. Videos of these practices were released on the “Wakuwaku Caravan Channel”.

研究分野：幼児教育・保育

キーワード：木育　造形ワークショップ　幼小連携　オンデマンド動画　実践教材

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

2018 年度施行の幼稚園教育要領・保育所保育指針における幼児教育のキーワードである「学び」は，子ども主体の遊びや活動を通して自ら学ぶ姿を支えることが求められており，幼児期に育みたい資質・能力の「3 つの柱」に挙げられる基本的な技能の育成や，「身近なものと関わり感性が育つ」ことをより具体的に提示していくことが求められる。そして小学校の各教科等における生活科を中心としたスタートカリキュラムでは，合科的・関連的な指導の工夫等の必要性が求められている。これらを実際の保育に落とし込むには，様々な視点から子どもや保育者の基礎的な技能と感性，そしてコミュニケーション能力を育むための具体的な教材を提示していく必要性が求められる。

これらの認識をもとに，造形教材のあり方の調査および研究を進めるなかで，いくつかの問題点とその改善方法の必要性が浮かび上がってきた。その問題点とは，保育現場で造形を行う場合，「環境調整・物的資源・人的資源」の確保の困難さにばかり気をとられてしまうということであった。また，幼小連携について，子どもや教員の交流は進んできているものの，教育課程の接続としては十分とは言えない状況である。実際に，高い「保育者の専門性」を達成するためには，こうした教育課程を念頭に置きつつ，身近なものと関わり経験することを通して，基礎的な技能や自らの感性を育む経験を積むとともに，コミュニケーション能力を育成していくことが喫緊の課題であると考えられる。その課題をクリアするための教材の一つとして，子どもへのリラクゼーション効果を持ち，感性を育む「木育」による造形教材が有効であるという結果が，保育現場における研究実践から明らかとなった。

２．研究の目的

実際の保育現場において，具体的に自然に触れ，かかわる，つくることを目的とした「木育」による造形教材の開発を中心に，子ども及び保育者の感性を育み，小学校における図工を中心とした合科的・関連的な学習，環境構成等の工夫を考え，幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力を各教科等の特質に応じた学びにつなげる。その実現に必要な内容の提唱による造形理解，「木育」による実践を教材集としてまとめることを，本研究の目的とする。

３．研究の方法

地域の保育所・幼稚園や小学校との連携によるワークショップの提案などを通して，感性を育む「木育」による造形教材の現状を調査し，感性を育む「木育」による造形教材の現状における問題点の抽出と検討，そして地域の保育現場や小学校などとの連携を通したワークショップの提案やアンケート調査を行いながら，幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力を各教科等の特質に応じた学びにつなげ，子どもが新たな感性を育み，コミュニケーション能力を育成するための「木育」による造形の具体的な検討と試行を行う。それらを通して，「木育」を中心に，子どもおよび保育者の感性を育み，小学校における合科的・関連的な学習，環境構成等の工夫を考え，幼児期の終わりまでに育まれた資質・能力を各教科等の特質に応じた学びにつなげた造形教材のまとめ，および web 等による公開を行うことを当初の研究方法とする。

しかし，研究 2 年目に入り新型コロナウィルスの感染症の流行拡大に伴う対面による造形ワークショップの見直しにより，オンラインを用いた「木育」教材の計画変更を行い，そのメリット・デメリットを明らかとするとともに，コミュニケーションへの配慮や説明方法の工夫，また素材の工夫などの教材研究を検討する。研究 3～4 年目（1 年研究延長）は「木育」によるワークショップの実践を計画・検討する上で，「対面」と「オンデマンド」を用いた造形教材研究についての分析・検討を行い，オンラインを用いたリアルタイムによる造形ワークショップの開催，及び動画作成と教材制作を通じた教材研究により，一般公開に向けたオンデマンド動画の作成を目指す。

４．研究成果

(1)「木育」による造形ワークショップの有効性

感性を育む「木育」による造形教材の具体的な研究と試行を通して，地域の保育所や幼稚園，小学校との連携による造形ワークショップの提案と現状調査を行い，感性を育む「木育」による造形教材の現状における問題点の抽出と検討を行った。具体的に，「ワクワク木育キャラバン」による活動を中心に，2 年間携わってきた 10 名の学生の報告書について分析を行い，「木育」による造形ワークショップの実践から，その有効性について検討した。

報告書の記述内容に沿って，プロトコル分析を行った結果，記述された内容を「子どもの姿への気づき」「活動のねらいと支援における配慮」「『幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿』との関連」「幼保-小連携との関連」に分類することができ，「木育」による造形ワークショップの実践を通して，子どもが五感を使って素材（木）と関わる様子や，五感を通して木に興味を持つようになっており，意欲的に制作に関する説明や援助に取り組みながら，子ども同士や学生とのコミュニケーション，さらには主体性が育まれていることがわかった。また，子どもの感性や

創造性を伸ばし，子どもが木に興味を持つための支援における具体的な配慮や，計画や支援の実際を通して，興味を惹く関わりや安全面の配慮など，子どもへの支援の際に留意すべきことについての学びが見られた。

さらには，今回の木育活動が，幼稚園教育要領において示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」の観点から見て有効であることを示す記述を通して，幼保-小連携の視点から，題材の持つ特性が教科の内容に繋がるという視点や，工夫すること等の学びに向かう姿，また自律的な活動にとっても効果がある活動であったことがわかった。

（2）保育者を中心としたアンケート調査の結果から

新型コロナウィルスの感染拡大に伴う対面による造形ワークショップの見直しがあったため，これまでの 2015～2019 年度にかけて「木育」によるワークショップに参加した保育者及びその周囲の保育者を中心に，幼小連携のための「木育」による教材についてのアンケート調査を依頼し，その分析結果から「木育」による教材の有効性について検討を行った。

その結果，実践に参加・調査協力した多くの保育者が，「木育」について保育に役立つと考えていた。また，日々の保育において，多少は幼小連携を意識していることが窺われ，その半数近くの保育者は今回の活動が幼小連携に役に立つと考えていた。幼小連携を意識した「木育」活動のイメージの差異について，幼小連携を意識した保育活動を行っている保育者は，「木育」が特にコミュニケーションにとって有効であることを感じていた。そして，「木育」による作品づくりの幼小連携への効果を肯定的に捉えている保育者は、「木育」の効果や保育への導入について肯定的であり，また活動に対して自信を持っていると言えることがわかった。

木育による造形活動の幼小連携における可能性については，「経験・学びの連続性」「木育の教育効果」「能力の育ち」のカテゴリーに分けられ，幼小の経験の連続性や木育経験による感性を育むなどの教育効果につながること，さらに学力に結びつく認知的能力だけでなく，その下支えとなる非認知的能力の育ちにも効果があると考えられていることがわかった。

表 1.「木育活動を活用した幼小連携」の回答人数（上段）と割合（%，下段）

質問項目	5はい	4どちらかといえばはい	3どちらともいえない	2どちらかといえばいいえ	1いいえ	合計
a.「幼小連携」について，常に意識しながら保育活動を行っていますか。	16 (11.0)	42 (28.8)	64 (43.8)	12 (8.2)	12 (8.2)	146 (100.0)
b.今回の「木育」による作品づくりは，「幼小連携」で役に立つと思いますか。	20 (14.6)	42 (30.7)	72 (52.6)	1 (0.7)	2 (1.5)	137 (100.0)

網掛は回答率が 30%以上のもの

表 2. 幼小連携を意識した保育活動の有無（設問 2-a）による，木育活動のイメージ（設問 1）の質問項目ごとの平均値*(M)*と標準偏差*(SD)*

質問項目／幼小連携を意識した保育活動の有無	はい(有り)	どちらともいえない	いいえ(無し)	全体	*F*
	M (SD)	*M (SD)*	*M (SD)*	*M (SD)*	
a.「木育」という語を聞いたことがありますか	3.39 (1.78)	2.61 (1.72)	2.88 (1.83)	2.96 (1.79)	2.96+
b.「木育」を活用した作品づくりは，今後の保育現場で役に立つと思いますか	4.26 (0.71)	4.06 (0.80)	4.17 (0.87)	4.16 (0.78)	0.95
c.「木育」を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか	3.59 (1.16)	3.35 (0.86)	3.46 (1.18)	3.46 (1.04)	0.78
d.「木育」は，子どもの創造性を発展させることにつながると感じましたか	4.29 (0.73)	4.14 (0.72)	4.13 (0.90)	4.20 (0.75)	0.75
e.「木育」は，子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか	4.12 (0.86)	3.86 (0.76)	3.61 (0.84)	3.92 (0.83)	3.63*
f.「木育」は，保育者の技能向上や創造性の発展につながると感じましたか	4.16 (0.85)	3.87 (0.64)	4.00 (0.78)	4.01 (0.76)	2.12
g.「木育」は，コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか	3.98 (0.83)	3.62 (0.66)	3.67 (0.76)	3.77 (0.76)	3.87*
h.「木育」を活用した造形活動について，もっと知りたい，参加したいと思いましたか	4.07 (0.81)	3.94 (0.76)	3.79 (0.93)	3.97 (0.81)	1.06
i.今後，「木育」を保育現場に取り入れてみたいと思いますか	3.97 (0.79)	3.84 (0.75)	3.83 (0.96)	3.89 (0.80)	0.43
j.今回の活動のような，作品づくり全般の活動は好きな方ですか	4.04 (1.09)	3.69 (1.00)	3.41 (1.14)	3.78 (1.08)	3.10*

k.今回の活動のような，作品づくり全般の活動は得意な方ですか	3.42 (1.10)	2.85 (0.81)	2.75 (0.97)	3.07 (1.00)	5.87**
l.今回の作品づくりは，自分としては上手く出来たと思いますか	3.49 (0.82)	3.30 (0.71)	3.11 (0.83)	3.35 (0.78)	1.76
m.今回の作品づくりは，周りに比べて上手く出来たと思いますか	3.08 (0.81)	3.08 (0.63)	2.94 (0.64)	3.06 (0.71)	0.28

** p<.01 * p<.05 + p<.10

表 3. 木育による造形活動の幼小連携における可能性のカテゴリーとその頻度，及び記述の例

カテゴリー		*N* (%)	記述の例
経験・学びの連続性	幼小の経験の連続性	12 (21.4)	・幼児と小学生ではできる事に差があり，上手く活用すれば，力が要る事や，難しい作業は小学生にさせて，それを見るだけでも，幼児には良い経験になるのでは。 ・幼稚園において経験しておくことで小学校での活動に自信をもって取り組むことができる。
	小学校の学習への効果	4 (7.1)	・木に触れ，手ざわりや形等小さいうちに感じ，小学生になって，さらに深く考え，興味を持てるようになるとより育める。 ・進学後の理科や生活に対する，学びの意欲が広がると思います。
	図工・制作への効果	13 (23.2)	・図工など造形活動の際，自らすすんで表現しようとする力が養えると考える。 ・小学校からは版画をしたり木で何かを作る機会が多くなると思うので，幼児の間から少しずつでも木に触れられる機会を作っておくとさらに良いと思います。
	技術の獲得	5 (8.9)	・幼小で木を拾ったり，その木に釘打ちしたりして製作すると思う。 ・道具の使い方など，しっかり教えることで安全に使うスキルが身に付くと思います。
木育の教育効果	木とふれあう経験	18 (32.1)	・木の質感，匂いは子どもに大きな広がりをもたらすと考えます。 ・木の種類によって木の感覚や，木目の違い，形，重さ，いろいろな事が違ってくるので，学びも多いと思う
	環境教育	13 (23.2)	・自然への興味を持ち，親しみ，森林への環境を理解しながら豊な心を育てたいという思いに繋がると思います。 ・幼少期から，木の実や枝に触れることで課外活動に出た時に，自然物に興味を持ったり，気付く力がつく。
能力の育ち	コミュニケーション	17 (30.4)	・木という自然の物と触れ合うなかで心がいやされたり，一緒に造形する楽しさが生まれたりすると思う。 ・一緒に協力し合って制作をする。教え合いをするなかで交流がふかまるのではないか。
	表現力，創造性，発想力	13 (23.2)	・子どもの創造性が周りとの関わりでさらに向上すると思う。 ・発想力が豊かになる。
	意欲，集中力	11 (19.6)	・1つのものを使い，何かを作ることで，集中力が育まれ，達成感を味わうことで，小学校に進学してからの，活動に役立つ。 ・造形活動によって自分で考えて作る力，アイデアが，今後の小学校生活の中で集中力がつき勉強に集中できたり，自分の考え，思いを人に伝えられる力がつくと考えています。
分からない	分からない	2 (3.6)	・活動を見ていないので，回答しづらい個所があったが，ぜひ，木育実践を見てみたいです。

註　括弧内は自由記述の総回答数（*N*=56）に対する割合(%)

（3）オンデマンドを用いた教材の研究

新型コロナウィルスの感染症の流行拡大に伴う対面による造形ワークショップの見直しから，動画としての背景のクオリティや準備するものなどの視覚的効果，幼児がさらに楽しくできる教材の検討，そして保育者・教員に対する教材のねらいや目的などを明確にするなどの工夫を行うといった，動画制作を中心とした検討を行った。この動画編集においては，複数の小学校教員及び関係者にも関わってもらうことにより，説明・見せ方・動画のコマ割りに至るまで検討を重ねた。

また，対面形式のワークショップに代わる木育教材を計画・検討するなかで，考案した教材（ひねりゴマの総数 875 個，ぶんぶんゴマの総数 597 個）の制作を行い，完成品を約 25 園程度の幼稚園・保育園に寄贈した。ひねりゴマとぶんぶんゴマの遊び方の動画も作成し，それを視聴することによって，園で子どもと保育者が遊ぶことができるような配慮も行い，子どもや保育者と直接的でなくとも間接的に関わるといった，新たなコミュニケーションの取り方についての学びを得ることができた。

動画視聴 QR コード

「木育」によるワークショップの実践を計画・検討する上で，「対面」と「オンデマンド」を用いた造形教材研究について，参加した学生の意見・自由記述を実践 1・2 に分けて分析・検討を行った。その結果，オンデマンド教材の作成における主な学びとして，対象者の理解や興味を促す動画の作成，またそのような保育実践のあり方において「分かりやすい説明・見せ方」についての学び，そして実際の子どもの活動や反応を予想しながら動画を作成する「子どもの姿を予想すること」の気付きが見られた。この視点は，対面での保育においても重要であると考えられ，オンデマンド教材の制作を通して保育における子どもの姿を予想することの重要性についての学びが明らかとなった。

（4）オンデマンド教材の作成 ― 「ワクワクキャラバンちゃんねる」

対面による造形ワークショップの継続的な参加は，学生一人ひとりの自信，制作支援や関わりの充実，さらには支援技術の向上や造形ワークショップの社会的な意義についての深まりへと変化することに繋がることが，以前の継続的な研究からも確認できた。その反面，「つくる」ことに特化していたことにより，「つくる」教材の提示の仕方を優先した検討が多かったことも確認できた。そこで，今回の動画を検討する上で，今までの「つくること」に特化した教材提示に加え，「つくるまで」の導入（環境問題や地域との関わり方）を子どもに伝えることを同時に意識することの重要性を取り入れながら，木育教材としての動画コンテンツを作成し，「ワクワクキャラバンちゃんねる」として一般公開を行った（https://www.youtube.com/@user-jm3fp2hv9p）。ここでは，「木のペンダントをつくろう！」「木のカスタネットをつくろう！「木くずであそぼう！」「あきのしぜんたんさくをしよう！」「きのみころころめいろをつくろう！」「ぶんぶんごまをつくろう！」「だいくさんごっこをしよう！」「木のえだフレームをつくろう！」「木のえだでてっぽうをつくろう！」「絵本の読み聞かせ『きみのこどもに会う日には』の 10 本の木育による動画教材を制作し公開を行った。

（5）まとめ

このように，本研究では，対面による活動が十分に行うことができなかったとはいえ，木育教材として固有の内容に加えて，対面による地域連携活動にも共通しうる内容，例えばオンデマンド配信による保育教材の作成を考えることや，作品を通じて他者とのコミュニケーションを考えることなど，保育についての新たな学びの可能性を得ることができた。

今回の実践は新型コロナウィルス感染症流行拡大という状況下でのオンデマンド配信による木育教材の作成が中心となったが，この状況の収束後も今後は保育現場においても ICT 機器の活用が急速に広がることが予想され、本研究で実践した教材作成はこれからの保育現場に対応しうる保育者の養成という点からもより詳細な検討を加えていく必要がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 矢野真、田爪宏二、吉津晶子	４．巻 18
２．論文標題 幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発Ⅲ -オンデマンドを用いた教材の研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都女子大学「発達教育学部紀要」第18号	６．最初と最後の頁 131-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岡林典子、矢野真	４．巻 4
２．論文標題 教員養成課程における「感覚をつなぐ表現活動」の試み―本学児童学科の「保育内容演習（表現）」の授業内容から－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都女子大学「教職支援センター研究紀要」	６．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢野真、田爪宏二	４．巻 17
２．論文標題 「幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発Ⅱ ―保育者を中心としたアンケート調査の結果から－」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 京都女子大学「発達教育学部紀要」第17号	６．最初と最後の頁 171－181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢野真、田爪宏二	４．巻 19
２．論文標題 「幼小連携のための保育・教職実践における木育教材の開発Ⅰ ―「木育」による造形ワークショップの有効性－」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大学造形美術教育研究第19号	６．最初と最後の頁 80－83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢野　真・田爪宏二	4．巻 16号
2．論文標題 「地域連携を通した木育教材の開発－木育ワークショップに参加した学生の学びから－」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 京都女子大学発達教育学部紀要	6．最初と最後の頁 133－140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 矢野真、田爪宏二、吉津晶子
2．発表標題 幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発Ⅲ ―オンラインを用いた教材の検討―
3．学会等名 日本保育学会第74回大会
4．発表年 2021年

1．発表者名 矢野真、田爪宏二
2．発表標題 幼小連携のための保育・教職実践における木育教材の開発Ⅰ
3．学会等名 日本保育学会第73回大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 矢野　真
2．発表標題 「人と地域を結ぶ木育」
3．学会等名 日本世代間交流学会　第10回大会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

1．著者名 監修：秋田喜代美　三宅茂夫、編：淺野卓司、執筆：五十嵐睦美、矢野真、他11名	4．発行年 2021年
2．出版社 株式会社みらい	5．総ページ数 168
3．書名 『子どもの姿からはじめる領域・表現』	

1．著者名 編著：川勝泰介、執筆：浅岡靖央、生駒幸子、矢野真　他20名	4．発行年 2020年
2．出版社 ミネルバ書房	5．総ページ数 230
3．書名 『よくわかる児童文化』	

1．著者名 矢野　真	4．発行年 2019年
2．出版社 成美堂出版	5．総ページ数 144
3．書名 『保育に役立つ0・1・2歳の手作りおもちゃ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「ワクワクキャラバンちゃんねる」
https://www.youtube.com/@user-jm3fp2hv9p

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田爪　宏二 (TAZUME Hirotsugu) (20310865)	京都教育大学・教育学部・教授 (14302)	
研究分担者	吉津　晶子 (YOSHIZU Masako) (60350568)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関